

しが学校支援センター
「地域の力を学校へ」推進事業の実践校（2020年度実施分）



メニュー番号	0601
メニュー名	理容、美容、すし、クリーニング、コーヒーなどの実演とお話
校名(学年)	湖南市立 下田小学校（第6学年;44名）
講師等	公益財団法人滋賀県生活衛生営業指導センター
学習名	自分の夢を見つけよう
教科等	総合的な学習の時間
実施日	令和2年12月14日（月）

《 授業 》

湖南市立下田小学校(6年生)では、キャリア教育の一環として職業人から話を聞く機会を3回設定され、今回はその初回でした。講師は、県生活衛生営業指導センター所員と理容生活衛生同業組合所属の理容師5名。授業の前半は、センター所員から講師の紹介と生活衛生営業についての説明があり、その後、理容師の仕事について理容師の方が話をされました。

まず、生活衛生営業(生衛業)とは、私たちの生活に欠かせないサービス業、飲食業、販売業など16の業種で構成され、その中には理容店、美容店、クリーニング店、ホテル・旅館、食堂やレストラン、食肉販売店、映画館などが含まれること。そして、これらの業種は衛生面での管理技術が必要であり、法律でしっかり規定されていること。そのため、資格を有しない限り就けない職もあり、理容師もその一つであることを説明されました。そして、コロナ禍の今、衛生面での管理をしっかりしないと、感染症の拡大につながりかねない職業であり、だからこそ専門的な知識と資格が必要なことを強調して話されました。また、生衛業はお客様を気持ちよくする仕事であり、接客の際にはあいさつやお辞儀の仕方、笑顔がとても大事であること。明るく大きな声で気持ちの良いあいさつをすることにより、人と人のつながりが深まること。さらに、背筋が伸びた美しいお辞儀をするためには、おしりを少し後ろに出すのがコツであることを教わり、児童たちも実際にやってみました。

続いて理容と美容の違いやその職に就くための資格取得への歩み方、資格取得後も日々スキルアップに努めていることなどを理容師の代表が話され、授業後半の体験学習へつながりました。

後半は「理容師に挑戦」と題し、4人一組で理容師用のはさみとカット練習用の人形を使った実体験学習が展開されました。上の写真は、その時の様子です。まず、グループ担当の理容師さんからはさみの持ち方と動かし方を教えてもらい、各自でチャレンジしてみました。ところが、親指だけを動かして切る切り方は、普段の切り方とは全く異なり、戸惑う児童がほとんどでした。しかし、時間の経過とともに理容師風のはさみの動かし方ができるようになり、櫛の使い方やはさみの入れ方などを個別に教えてもらいながら、練習用の人形の髪を実際にカットし、その難しさやプロの技の凄さを実感していきました。当初、体験時間は約30分を予定されていましたが、子どもたちの手がなかなか止まらず、少し時間をオーバーしてしまいました。学習後の掃除も理容師にとっては大事な仕事であると伝えられたこともあり、しっかり後始末を行い、お礼を言って会場を後にすることができました。

《 感想 》

児童・生徒

- ◇ 誰かを笑顔にできる仕事はすてきだなと思った。私は今まであまり興味がなかったけれど、今回体験してみて少しやってみたくなりました。
- ◇ はさみの持ち方がむずかしかったです。あのはさみで様々なヘアスタイルが生まれると思うと、ワクワクしました。

学 校

- ◇ 子どもたちの身近な理容師という仕事を改めて紹介していただいたことで、知っているつもり「理容師」という仕事の新たな発見が子どもたちにありました。はさみ一つとってもその持ち方にテクニックがあり、プロの凄さにふれさせることができて良かったです。

支援者・講師

- ◇ コロナ禍の大変苦勞されている環境の下で、児童に少しでも職業というものに対する意識を醸成させるため、担任の先生をはじめ学校側の取り組みの積極的な意識が感じられました。また、子どもたちは、普段は客として接している理容師の熟練した技術、その習得のための努力、髪を切ったり整えたりするセンスなどに接することにより、職業を身近に感じる機会となったならうれしい限りです。